

事務事業説明シート

事業No. 2

①事務事業名	中心市街地まつり行事開催事業費助成事業								
②所管課	観光・シティプロモーション推進部 観光・グローバル推進課								
③施策の背景	事業の背景・目的	大規模なまつり・イベントに対して、助成金を交付し、事業の充実による来場者の増加を図る。							
	受益者	観光産業関連事業者 イベント来場者							
	目標 (アウトカム目標)	目 標	各まつり・イベントの認知度の向上 市民及び市外からの観光客の増加				達成期限	-	
	計画	後期実行計画		×	まち・ひと・しごと創生総合戦略			○	
④事業説明	事業の概要	中心市街地活性化のために実行委員会形式で開催される大規模なまつり・イベントに対して、各行事の実行委員会に助成金を交付する。							
	事業内容 (具体的な手段・手法・業務)	<p>助成金の交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新川市まつり <p>【行事の概要】寛政10年（1798年）、中津瀬神社建立を機に、神社周辺に農具市が立ったのが始まりとされ、以来商業の発展を願う人々で賑わう、伝統の「市（いち）」のまつり。最終日の5日は公募による公開結婚式「うべ狐の嫁入り行列」が行われ、狐姿の花嫁を一目見ようと多くの人が集まり、祝福ムードに包まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部市花火大会 <p>【行事の概要】打上発数は、県内では最大規模の約1万発。花火の打ち上げとバックに流れる音楽をコンピュータ制御でシンクロさせる「音楽花火」が見所で、圧倒的な迫力を感じることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部まつり、曳山事業 <p>【行事の概要】昭和9年、市制記念日の祝賀行事に端を発し、「炭都祭」と称して始まった本市最大のまつり。昭和11年には「炭都祭」を「宇部石炭まつり」と名称をかえて、太平洋戦争でやむなく中止となるまで続けられた。戦後になって、昭和27年に今度は「石炭祭」という名前で復活、さらに昭和37年には市民総参加のまつりという意味で、「宇部まつり」と改称し、今日では宇部の元気を発信する魅力的なまつりに生まれ変わり、現在に至っている。平成3年からは、まつりシンボルとして曳山を制作し、パレードの華としてまつりを盛り上げている。</p>							
⑤投入資源	事業費・人件費	事業費				人的資源（参考：正規職員1人/年≒804万円/年）			
		H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)
		25,550千円	25,450千円	25,450千円	25,450千円	0.01人役	0.01人役	0.01人役	0.01人役
⑥事業効果	アウトプット（活動実績）				アウトカム（活動成果）				
	指標：来場者				指標：来場者				
	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(見込)	
	新川市まつり 7.2万人	新川市まつり 7.3万人	新川市まつり 7.5万人	新川市まつり 7.3万人(実績)	新川市まつり 7.2万人	新川市まつり 7.3万人	新川市まつり 7.5万人	新川市まつり 7.3万人(実績)	
花火大会 12.5万人	花火大会 13万人	花火大会 14万人	花火大会 14万人(実績)	花火大会 12.5万人	花火大会 13万人	花火大会 14万人	花火大会 14万人(実績)		
宇部まつり 21.8万人	宇部まつり 22万人	宇部まつり 23.2万人	宇部まつり 24万人	宇部まつり 21.8万人	宇部まつり 22万人	宇部まつり 23.2万人	宇部まつり 24万人		

⑦ 自己点検結果	A 必要性			B 有効性			C 効率性		
	A-1.事業の目的は市民や社会のニーズを的確に反映しているか	A-2.民間団体等にゆだねることができないか (○:行政が行うべき、△:一部民間、×:民間で行うべき)	A-3.背景・目的・目標の達成手段として必要かつ適切な事業か	B-1.事業内容は背景・目的に即したものであるか	B-2.活動実績は活動成果に大きく貢献しているか	B-3.活動成果は目標達成に向け、計画どおり推移しているか	C-1.投入資源に見合ったアウトプットを生み出しているか	C-2.事業手法について、考えられる他の手法より、高効率または低コストか	C-3.その他、コスト削減や効率化に向けて適切に取り組んでいるか
	A-1 ○	A-2 △	A-3 ○	B-1 ○	B-2 ○	B-3 ○	C-1 ○	C-2 △	C-3 ○
	評価基準								
	A 必要性			B 有効性			C 効率性		
A-1 ○ 十分できている △ 一部できている × (あまり) できていない — 事業に該当しない評価項目 A-2 ○ 行政が行うべき事業である △ 一部民間にゆだねることができる × (基本的に) 民間にゆだねることができる A-3 ○ 必要かつ適切な業務である △ 必要ではあるが、事業の代替を検討すべき × 必ずしも必要とはいえない — 事業に該当しない評価項目			B-1 ○ 十分即している △ 一部即している × (あまり) 即していない — 事業に該当しない評価項目 B-2 ○ 実績は成果に大きく貢献する △ 貢献する × 若干貢献する、または(あまり)貢献しない — 事業に該当しない評価項目 B-3 ○ 計画どおり(計画値の100%以上) △ ほぼ計画どおり(計画値の80%~99%) × 計画どおりとは言えない(計画値の80%未満) — 事業に該当しない評価項目			C-1 ○ コストパフォーマンスは高い △ コストパフォーマンスは若干低い × コストパフォーマンスが低い — 事業に該当しない評価項目 C-2 ○ 他の手法より、高効率・低コスト △ (たぶん) 高効率・低コスト × 高効率・低コストと言えない — 事業に該当しない評価項目 C-3 ○ 定期的にコスト削減・効率化に取り組んでいる △ 過去に取り組んだことがある × 取り組んだことはない			
見直しの方向性		より効率的・効果的な事業実施を目指して継続							
⑧ これからの見直し	各イベントともに市内での認知度は非常に高く、多くの市民の来場が得られている。今後は、本市の観光誘客のため、これまで以上に、市外・県外から来場者の増加を図るため、イベント内容の充実・拡大や、情報発信・プロモーション活動をさらに活発に実施しながら事業を継続する。								